

銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役

橋本 健一郎



9月のアルミ概況および10月の見通し (3)

予想レンジ

LME 現物後場買い2,000-2,200ドル

スクラップ 0~+5円 (前月最終価格より)

為替 140円~145円



円安

(1か月間TTM)

■国内概況まとめ

【自動車】

【自動車生産】

生産動態統計によると8月の自動車生産台数は前年比+22.3%の55万1,799台。輸出は前年同月比+15.3%の27万182台。

【自動車販売】

日本自動車販売協会連合会によると8月の自動車販売台数(軽除く)は前年比+17.8%の24万2,042台。

内訳は、乗用車が+24.7%、貨物が+14.9%、バスは-3.2%。

【住宅着工戸数】

8月の新設住宅着工は、持家は減少したが、貸家及び分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比4.6%の増加となった。また、季節調整済年率換算値では前月比9.4%の増加となった。

○新設住宅着工戸数は77,712戸。前年同月比4.6%増、4か月ぶりの増加。

○新設住宅着工床面積は6,178千㎡。前年同月比0.5%増、4か月ぶりの増加。

○季節調整済年率換算値では903千戸。前月比9.4%増、先月の減少から再びの増加。

【アルミ圧延・押出品生産数】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比-4.4%の12万9,352tで5か月連続マイナス。

板類は7万8,544tの-4.8%で4か月連続マイナス。

押出類は5万808tの-3.8%で8か月連続マイナス。

【アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績】

前年比は、-5.8%の5万1,855tで12か月連続マイナス。

出荷は、-5.7%の5万2,308tで12か月連続マイナス。

【輸出】

新地金は+36%の138t、2次合金は-19.8%の1,864t、スクラップは+62.8%の3万2,559t、アルミ缶は-7.6%の6,335t。

【輸入】

新地金は-11.7%の11万4,496t、2次合金は-0%の9万1,766t、スクラップは+47%の597t、

合金スクラップは-14%の5,567t。

【見通し】

【自動車】

8月の自動車生産が+22.3%。8月国内販売台数が前年比+17.8%。9か月ぶり生産、販売共に大幅増加。

中国のゼロコロナ政策の影響は残るものの自動車向けに積み上げてきた部品の在庫が掃けてきたとの情報が入ってきており、今後、自動車の挽回生産が進行するものと期待される。

【アルミ圧延・押出品生産数】

住宅着工の増加により来月以降に期待。

【アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績】

中国のゼロコロナ政策の影響は残るものの自動車向けに積み上げてきた部品の在庫が掃けてきたとの情報が入ってきており、今後、自動車の挽回生産が進行するものと期待される。

・アルミ輸出は中国向けや円安を受けて新地金、スクラップが増加。

・アルミ輸入は円安での割高感からスクラップ以外減少。

【スクラップ景況予想】

流通(一次問屋)在庫は欧米の金融引き締め策からLME価格が2,100-2,200ドルと低位安定。入荷も少なそう。需要面に関しては中国のゼロコロナ政策の影響は残るものの自動車向けに積み上げてきた部品の在庫が掃けてきたとの情報や自動車生産。販売の急回復を受けて来月も自動車の挽回生産が進行するものと期待される。

【LME・為替予想】

今月は以下の項目に左右される。①米欧の金融政策 ②中国のコロナ対策(ロックダウン)の動向。

①に関しては、米国に関して引き締め一辺倒のFRB。9月の米サプライマネジメント協会(ISM)製造業景況感指数が50.9と市場予想(52.0)を下回り、2020年5月以来の水準に低下した。

好不況の境目とされる50割れが視野に入り、景気減速でインフレ率が低下するとの見方もあるがパウエル長官の意志は固くやはり次回も0.75%の利上げを行うのではないかと。

ECB(欧州)に関しては欧州金融大手クレディ・スイス・グループの財務不安観測から利上げペースと鈍化させるのではないかと。

②に関しては、国慶節の連休明けの10月10日以降で大規模なロックダウンへの警戒感はあるが現状は未知数。

これらを踏まえた9月のアルミ価格は2,000-2,200ドル(セツル)との予想。

ドル円値は140円~145円(TTM)台を予測。

スクラップ購入価格に関しては、据置から+5円程度と予想している。

(「9月のアルミ概況および10月の見通し」おわり)

日刊金属 既刊収録サイト

<https://nikkankinzoku.co.jp/>
